

所属・資格 社会学科・教授

申請者氏名 中瀬 剛丸

研究課題		大学生の職業選択に資する情報の活用に関する実践的研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	自らの進路を選択する能力・態度を育てるキャリア教育は、義務教育から大学に至るまで現代の教育の課題となっている。その中で大学生は、関心を寄せる対象が就職活動に関する情報に偏りがちで、自らの人生を設計するための基盤となる社会の現状や仕事の実情に関する知識が乏しい。本研究では、大学生が自分の価値観にあった職業を考えたいという就職活動に取り組むようになるためには、どのようなタイミングでどのような情報を提供することが有効かについて分析・考察した。具体的には、就職関連のブログ記事へのアクセス数やキャリアデザインの授業に対する感想レポートの内容分析を行った。
	研究の結果	就職活動が本格化する時期である2019年2月から3月にかけて、筆者が開設しているブログへのアクセス数を分析した結果、記事別アクセス数の約4割が採用選考の際に提出するESの書き方についての記事に集中し、仕事・会社を選ぶ上で留意すべきことなどを紹介した記事に比べて格段に多いアクセス数があった。ESの書き方の記事は、10年前の2009年2月にアップしたものであり、就職活動に取り組む学生にとって実用的な情報のニーズが高いことを示している。一方、筆者が担当している「キャリアデザイン」の2016年度と2017年度の授業の最終回に提出を求めた感想レポートの内容分析では、「最も印象に残ったこと、自分なりに考えたこと」として上げられていた項目として、知名度の低い優良企業の紹介や自分が志望企業を選ぶ上で重視すべき事、さらには、そもそも働くことの意味を考えさせられたことなどが上がり、採用選考のESや面接対策に注目が集まる傾向は見られなかった。
	研究の考察・反省	大学における就職支援活動は、ほとんどの学生が民間企業、もしくは公務員・教員を目指すことを前提に、どのような対策をとれば実現可能性を高められるかという視点での指導にならざるを得ない。キャリア教育の授業に関しても、学生の受講目的としてはブログ記事へのアクセスにあらわれたような実用的なニーズがある。しかし、実際に授業を受講した後の感想としては実用的なハウツーよりも、キャリア教育の主たる目的である「自らの進路を選択する能力・態度」につながる項目に反応していることが示唆された。ただし、あくまで授業を受けた直後の感想であり、実際の進路選択や志望企業の選び方に反映されているかどうかは分からない。また分析の結果を授業テーマの選択や内容の組み立て方の改善につなげることも今後の課題である。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所  研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>当面の課題として、キャリア教育の授業の改善につなげられるように、実践的な検討に注力し、学生の反応の変化などを踏まえて、研究成果としてまとめたいと考えている。</p>	